

# 福島県における「試験操業」の取り組み

## 試験操業とは

福島県では、原発事故の影響で沿岸漁業の操業を自粛していますが、モニタリング検査の結果から安全が確認されている魚介類も多くあります。試験操業は、安全な魚種に限定し、小規模な操業と販売を試験的にを行い、出荷先での評価を調査して、福島県の漁業再開に向けた基礎データを得るために行っています。

また、試験操業で漁獲された魚介類の流通販売を通して、流通業者や消費者の皆様に、福島県の魚介類の安全性をPRし、風評払拭に努めています。



## 対象種・漁法・操業海域

福島県では、平成23年4月以降、魚介類の放射性物質濃度についてモニタリング検査を実施し、4万1千件を超える検査結果から、放射性物質の濃度が低い種類、あるいは事故直後は高かったものでも時間の経過とともに明らかに低下している種類が分かってきました。そのような中から、安定的に数値が低く、ほとんどが不検出となっているものを試験操業の対象種としています。

試験操業は、平成24年6月22日から、タコ類2種、ツブ貝1種を対象に相馬沖から開始され、その後、安全性を確保しながら、魚種、漁法、漁場を順次拡大し、平成29年1月30日現在では、97種の魚介類を対象に行われています。

## ◆ 主な対象種 ◆



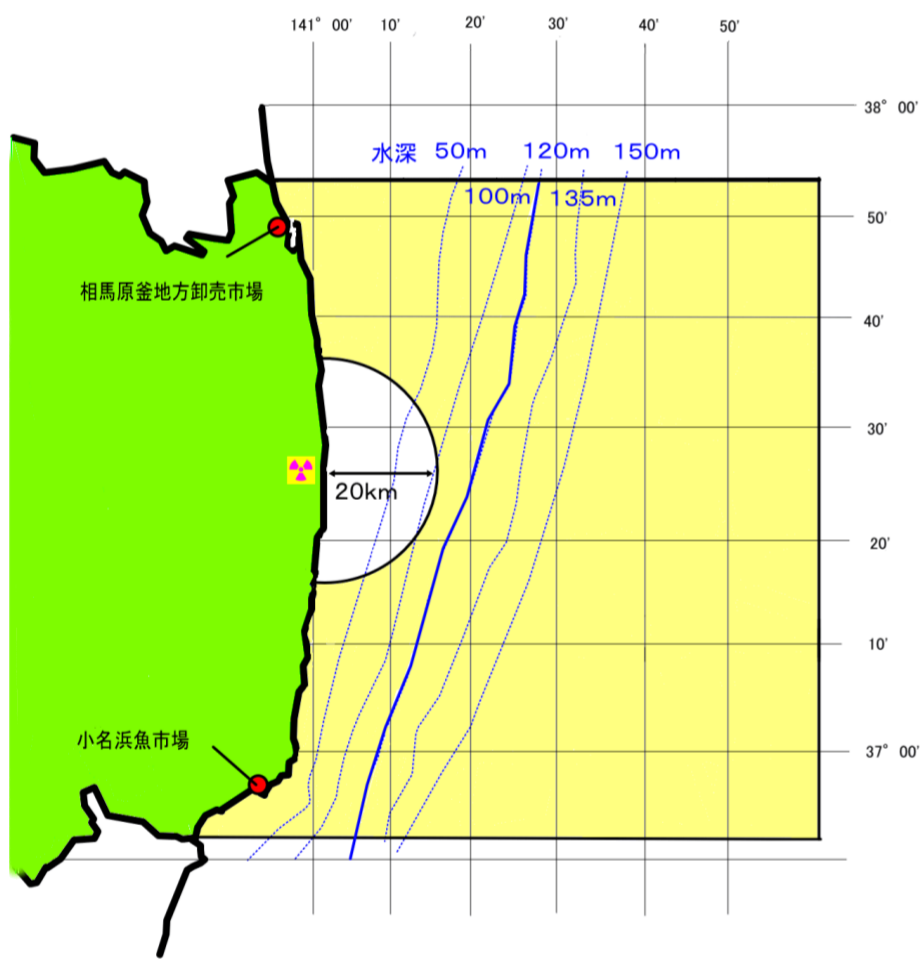
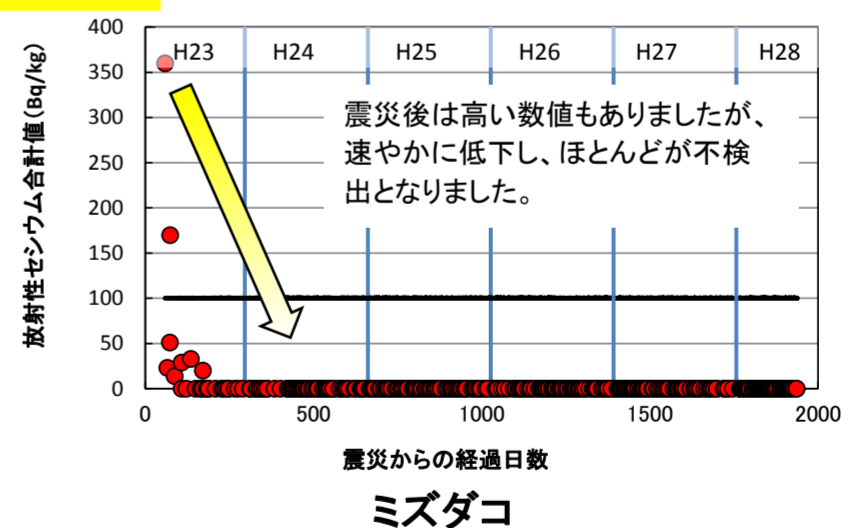
## 試験操業対象種 平成29年1月末現在 97種

魚類 71種			
アイナメ	クロウシノシタ	スケトウダラ	マアナゴ
アオメエソ(メヒカリ)	クロソイ	ソウハチ	マイワシ
アカカマス	クロマグロ(メジマグロ)	タチウオ	マガレイ
アカガレイ	ケムシカジカ	チダイ	マコガレイ
アカシタビラメ	コウナゴ	トラフグ	マゴチ
アカムツ	ゴマサバ	ナガツカ	マサバ
アコウダイ	コモンカスベ	ナガレメイタガレイ	マダイ
イシガレイ	コモンフグ	ヒガンフグ	マダラ
イシカワシラウオ	サブロウ	ババガレイ(ナメタガレイ)	マツカワ
ウマヅラハギ	サメガレイ	ヒガンフグ	マトウダイ
エゾイソアイナメ(ドンコ)	サヨリ	ヒラマサ	マフグ
オオクチイシナギ	サワラ	ヒラメ	ミギガレイ(ニクモチ)
カガミダイ	シラ	ヒレグロ	ムシガレイ
カツオ	ショウサイフグ	ブリ	メイタガレイ
カナガシラ	シラウオ	ホウボウ	メダイ
カンバチ	シラス	ホシガレイ	ヤナギムシガレイ
キアンコウ	シログチ	ホシサメ	ユメカサゴ
キチジ	シロザケ	マアジ	
甲殻類8種			
ガザミ	ズワイガニ	ヒラツメガニ	ボタンエビ
ケガニ	ヒゴロモエビ	ベニズワイガニ	ホッコクアカエビ
イカ・タコ類7種			
ケンサキイカ	スルメイカ(マイカ)	マダコ	ヤナギダコ
ジンドウイカ	ヤリイカ	ミズダコ	
貝類9種			
アサリ	シライトマキバイ	ヒメエソボラ	
アワビ	チヂミエソボラ	ホッキガイ	
エソボラモドキ	ナガバイ	モスソガイ	
その他2種			
オキナマコ	キタムラサキウニ		

## 試験操業を行っている漁法 平成28年9月末現在

- ◆ 沖合底びき網
- ◆ 貝けた網(ホッキガイ)
- ◆ 流し網(サワラ、マイワシ等)
- ◆ 沖合たこかご
- ◆ 採貝(アワビ、ウニ)
- ◆ はえなわ(タラ、メヌケ類)
- ◆ 徒手採捕(アサリ)
- ◆ 小型機船底びき網
- ◆ 機船船びき網(コウナゴ、シラス、シラウオ)
- ◆ 機船船びき網(サヨリ)
- ◆ 固定式さし網(マガレイ、シラウオ、カニ類、シロザケ)
- ◆ かご(カニ類、タコ類)
- ◆ 釣り(カツオ、クロマグロ)
- ◆ ハモかご、どう(マアナゴ)

## 検査結果の一例



## 試験操業海域

- 試験操業は、福島第一原発から半径20kmの海域を除く、福島県沖全域で行っています。
- 底びき網については、資源を大切にするために、水深90m以深で行っています。

## 安全性の確保について

- 試験操業の計画は、漁協内に設置した「検討委員会」、漁業関係者・国・県・大学・流通業者等が構成メンバーである「地域漁業復興協議会」、「県下組合長会」で審議され、いくつもの組織決定を経て、はじめて試験操業に着手できます。
- 試験操業の対象種は、県のモニタリングで安全が確認されていますが、漁協の検査室においても、水揚げ日毎に魚種毎に検査し、安全を確認した後に出荷されます。
- 相馬双葉地区に8台、いわき地区に9台の検査機器が設置してあり、検査員研修を受けた職員が検査に従事しています。
- 以上のように、福島県の試験操業は、多方面からの意見を取り入れ、また、生産現場でも細心の注意を払いながら取り組んでおりますので、安全・安心な福島産魚介類をぜひご賞味ください。



漁協によるスクリーニング検査